

検査で何がわかる？

健診の検査項目

身長・体重	肥満度を調べます。軽度の肥満は特に心配ありませんが、高度の肥満になりますと糖尿病・高血圧・心筋梗塞などの生活習慣病になりやすくなります。 逆に急な「やせ」は精神的・身体的に異常をきたしていることがあります。
腹囲	内臓脂肪型肥満かどうかを調べる検査です。男性は85cm未満、女性は90cm未満が適正です。
BMI	肥満度を調べます。25以上は肥満、18.5未満はやせ(低体重)です。
血圧測定	血圧が高いと脳卒中や心筋梗塞などの生活習慣病の原因となります。
視力検査	急激に視力が低下した場合は白内障などの疑いがありますので、医師による精密検査が必要になります。
聴力検査	難聴の有無を調べます。
心電図検査	心臓の疾病気(狭心症・不整脈・心筋梗塞など)を調べます。
胸部X線検査	肺がん・肺結核・肺気腫などの呼吸器疾患や大動脈の異常を調べます。
胃部X線検査	胃がん・胃潰瘍・十二指腸潰瘍などを調べます。
便潜血検査	便に含まれる微量の血液を検査するもので、主に大腸がんの早期発見に役立ちます。
尿糖検査	主に糖尿病の有無を調べます。
尿蛋白・尿潜血	腎炎・腎不全などの腎臓の疾患や尿路結石、膀胱炎、尿道炎を調べます。
ウロビリノーゲン	陽性の時: 各種肝疾患や循環機能不全など 陰性の時: 閉鎖性黄疸
尿沈渣	尿の沈殿物を顕微鏡でみる診断法です。
血色素量 赤血球数 ヘマトクリット	増加する時: 多血症が疑われます。 減少する時: 貧血・小腸疾患・アルコール性肝炎などが疑われます。
白血球数	増加する時: 各種感染症が疑われます。 減少する時: ウィルス性疾患、再生不良性貧血などが疑われます。
血小板	出血した時に血液を止める働きをします。
血液像	体内に細菌や異物が浸入すると血液中の白血球が増加します。それを詳しく調べ病気診断の手がかりとする検査です。
総コレステロール	血液中の脂肪分であり高い場合には動脈硬化の原因となります。
HDLコレステロール	別名「善玉コレステロール」と呼ばれており、動脈硬化を予防する働きがあります。
LDLコレステロール	別名「悪玉コレステロール」と呼ばれており、動脈硬化を引き起こす危険因子です。
中性脂肪	皮下脂肪の主成分であり、エネルギー源となる栄養素ですが、増えると善玉コレステロールが減少し、動脈硬化症などになります。食後は高くなります。
GOT(AST) GPT(ALT)	高い場合は、肝機能障害や胆のう・胆道の障害が疑われます。大きく分けてウィルス性とアルコール性にとわかれていますが、栄養障害などで高値を示す場合があります。
γ-GTP	肝機能障害や過度の飲酒で上昇します。
ALP	主に肝臓や骨、骨盤、小腸に異常があると高くなります。
ZTT	肝障害、肝硬変などが疑われます。
総ビリルビン	
LDH	悪性腫瘍、肝臓病、心臓病、血液の病気等で高値になることがあります。
アミラーゼ	急性膵炎、慢性膵炎などの膵臓疾患が疑われます。
尿素窒素・クレアチニン	腎機能の障害などが疑われます。
総蛋白	高い時: 脱水症、自己免疫性疾患などが疑われます。 低い時: 栄養摂取不足などが疑われます。
アルブミン	肝機能や腎機能の障害などで体内の代謝など異常が生じると値が変動します。
尿酸	高値の場合、痛風が疑われます。
血糖	糖尿病の有無を調べますが、前日に暴飲暴食や採血前に飲食すると高値を示す場合があります。
HbA1c	過去1～2ヶ月の血糖の平均値を表します。食事などの影響をあまり受けませんので、この値が高い人は糖尿病が疑われます。

* 異常は全て「病気」というわけではありません。健康診断時の体の状態や食事・飲酒・疲労等の様々な原因で一時的な異常値を示すこともありますので、「異常」と判定を受けた方は必ず医師に相談する必要があります。